

会長挨拶



ごあいさつ

会長 牧岡晴美

令和6年になりました。日頃より埼玉県助産師会の活動に御理解と御協力を頂きまして感謝申し上げます。

この度の能登半島地震により、犠牲となられました方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された全ての方々にお見舞い申し上げます。被災地の日も早い復旧・復興、そして被災された皆様の生活の安全と、平穏な生活が戻ることを、心よりお祈り申し上げます。

昨年は、2類相当が長引いてきたCOVID-19が5月8日より5類感染症となり日常生活が徐々に回復し活気が戻ってまいりました。今夏には全国的にも猛暑に見舞われ、熱中症対策が必要となる様な危険な暑さが連日続き、会員の皆様方も日々体調管理に危惧されたのではないかとお察しいたします。

一昨年、埼玉県助産師会は100周年を迎えました。盛大に式典は開催されましたが、祝賀会とまではかなわず、やや心残りであった会員の皆様方も多くおられたかと思えます。コロナ禍以前には年1回の懇親会は定例でありましたので、会員の皆様の御意向を受け、昨年11月久しぶりに懇親会を開催することが出来ましたことは感慨深く、楽しい時間が持てました事に感謝いたします。助産師、元氣、そしてパワフルです。

母子保健法の一部改正により、2021年4月1日より産後ケア事業が市町村の努力義務として規定されていましたが、いよいよ本年末までには全国展開されることとなります。市町村単位で格差の問題はありますが、産後の全ての母子が不安なく、前向きに育児生活が出来る様な支援が望まれるところでもありますので、我々助産師の技術とケア能力を最大限に活用頂きたく、そして広く必要とされる母子に助産師によるサポートが行き届くように願っています。

また、県からの委託事業である不妊・不育・妊娠サポートダイヤル事業が、昨年よりプレコンセプションケア相談センター埼玉“ぶれたま”として名称変更し、相談日時を増加して、思春期の健康や、妊娠、出産、不妊・不育症に関する相談に助産師が丁寧に対応しており、相談件数も増加しております。プレコンセプションケア普及啓発事業として出前講座も行っており、今後益々専門家としての役割と活躍が期待される所です。私事ではありますが、今年度5月11日通常総会をもちまして、会長職を任期満了にて退任となります。副会長として1年間、会長として5年間、今まで組みさせていただいたのも、関係機関・各位の皆様方の御協力の賜物でありますことに深く感謝申し上げます。今後も変わりなく助産師会会員として、埼玉県の母子保健の推進と向上に寄与してまいり所存です。

埼玉県助産師会のより一層の発展と会員の皆様方の御健勝・御活躍を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

部会活動報告

助産所部会報告

所沢地区 阿部 淳子

「令和時代における助産師の役割について」

現在、県内には17施設（休業も含め）の分娩取扱助産所があります。本業以外に、行政や教育機関など様々な仕事に携わっている者が多く、私もその一人です。県委託の母体新生児搬送コーディネーター事業の仕事は開始から携わっています。当時は、助産所の嘱託医や医療機関がなかなか見つからないなどの問題があり、この事業を通して医療機関との連携が円滑にとれるようになればと期待していました。現在は搬送手順が整備され、助産所からの搬送は、嘱託医師が受入れ困難な場合、助産所所在地の地域周産期センターへ依頼することが可能となりました。

この仕事を続けていると、若者達への健康教育の大切さをひしひしと肌で感じます。搬送理由の多くは、切迫早産、前期破水です。また、背景に、不妊治療を経ての妊娠や、高齢妊娠が増加しています。助産所分娩を希望する妊婦の条件は厳しいですが、妊娠経過の中で異常をきたし病院への転院も少なくはありません。助産所（自宅分娩含む）で出産する割合は昭和30年代から1%を保っていましたが、現在は0.7%に下がっています。このままいくと将来、助産所分娩は0%になってしまうかもしれません。産む、産まないは個人の選択ですが、妊孕率を高めるためには、幼児期・思春期の身体作りの大切さやライフサイクルの中でいつ出産をするかを考えることも含め、大きな意味で健康教育を広める役割が令和の時代の助産師にあると実感する日々であります。



保健指導部会報告

越谷地区 山本 亜彩子

「令和5年度の保健指導部会の取り組み」

令和5年12月9日（土）に行われた保健指導部会の集会は、会場とオンラインのハイブリットで開催しました。テーマは、県内ではなかなか報告されていないという実態のもと「インシデント・アクシデントの報告書の作成」をテーマに学びました。日本助産師会の動画「日本助産師会インシデント・アクシデント報告ガイド」を視聴し、実際の報告書や、実際の報告事例を参加者で確認しました。その後、鶴野州安全対策委員長より事例の提出方法や、検討の流れについてお話を伺いました。そして最後には参加者全員で事例を参考に、報告書を作成しました。実際に作成してみるからこそ出てくる疑問や質問があり、参加者にとって有意義な時間となりました。

最後に、私事ではありますが、自宅出産にて第5子を迎えることができました。リビングで、家族一緒に新しい命を迎えるという大変貴重な時間を味わうことができました。これも地域で活躍される助産師がいて、チームワークがあるからこそと感じました。これからの助産活動や、ご家族に寄り添う助産師として役立てていきたいと思っています。



勤務助産師部会報告

熊谷地区 清水 操

「勤務助産師部会の1年」

昨年まで開催していたブラッシュアップ研修会には参加いただけましたか。皆様が今知りたいことは何かを考えながら会議を重ね、準備をしました。私自身にとっても大変学びの多いものとなりました。講師の先生には素晴らしい講義をご準備いただき、感謝いたします。中でも産科病棟の混合化については、出生数が減っていることを肌身で感じ、病棟では様々な科を受け入れる現実に少しでも風穴を開ける提案ができればと思わずにはいられません。混合病棟化した中でも入院中のお母さま方に満足のいくケアが提供できるよう、この講義を生かしていきたいと思いました。会員の皆様に向けて研修会の準備・開催は、勤務助産師部会の大きな役割であると考えます。会員の皆様におかれましては、ぜひ受けたい講義をお寄せいただき、益々充実した研修会が開けるよう部会として努めていきたいと思っています。また、この1年を振り返ると、総会後の部会集会では皆様に会うことができましたが、その後なかなか会を重ねられなかったことが反省です。日々様々な現場で働いている皆様と、どうしたら有意義な交流がもてるのかと日々考えています。部会でSNSを活用している県もあると聞き、興味をもちました。様々なツールを活用し、多くの会員間の交流を図り、部会員同士の理解を深め、連携することで部会組織の強化を図るなど、部会の目標が達成できるのではないか、という可能性を感じた1年間でした。

